

## 復興支援フォーラムニュース No.108

(URL <http://www5a.biglobe.ne.jp/~tkonno/FK-forum.html>)

<事務連絡先> 今野順夫 ([tkonno67@gmail.com](mailto:tkonno67@gmail.com))

=====

<第106回 ふくしま復興支援フォーラム>

被災者が主役の復興目指して ～試みとしての「車座会議」～

特定非営利活動法人 超学際的研究機構

田村 泰生

### ●プロジェクト

福島の復興再生を目指す「車座会議」と「情報プラットフォーム」の構築

- ・プロジェクトを始めたきっかけ・・・2年前、福島市で開催した  
国連防災世界会議関連事業 in 福島。
- ・目指すのは・・・被災者が人間らしい生活・希望と勇気を取り戻すこと。
- ・方法論として・・・被災者の意見を「復興のプロセス」に反映させる。
- ・実践手法として・・・意見の合意形成の場として「車座会議」を設置。

### ●車座会議の実践例

- ・車座会議に3つのルールを設定・・・①全員が対等、②自由な意見、③意見の共有。
- ・被災者の声の反映・・・対象テーマに「被災自治体の復興計画策定」を選定。
- ・自治体の復興計画・・・震災から6年、見直しの時期であった。
- ・議論から見えてきたもの（一部）・・・
  - ✓避難者に迫るコミュニティの喪失
  - ✓明暗分かれる受け入れコミュニティとの関係
  - ✓相互理解のために必要なこととしての「体験交流」
  - ✓ふるさとへの帰還意欲を損なわないための環境整備
  - ✓避難指示解除が「避難か移住」の二者択一を迫るものではないこと。

### ●車座会議の検証

- ・車座会議の意見と「計画案中間とりまとめ」の比較検討
- ・住民の意見と計画案の表現にみられる特徴とは
- ・検証をもとに「車座会議 Part2」を開催

### ●車座会議で見えてきたこと

- ・到達点は多様な意見を束ね相違点を明らかにして「合意形成」を図ること。
- ・車座会議は被災者に軸足を置くこと。
- ・参加者全員が意見交換できる規模、多くても20人以内。

- ・意見の取り扱いは、「言いつ放し」にしないこと。
- ・課題は車座会議参加者の選び方。

### ●情報プラットフォームの必要性。

- ・合意形成は図るためには、情報が欠かせない。
- ・情報提供に必要なプラットフォームの条件。
  - ✓透明性が高いこと。
  - ✓誰もがアクセスできること。
- ・現在の問題点は情報があっても被災者に届いていないこと。
- ・情報プラットフォームの前提として「復興支援マップ」を構築する。

### ●復興支援マップ

- ・「ふくれっぶ」の名称でWeb上に展開。
- ・三つのコンセプト・・・①情報の見える化②双方向性、③被災者目線に徹する
- ・被災者が主役の仕組みは・・・情報の受け手もまた情報の発信者であること。
- ・掲載する情報・・・住民のニーズに合わせて、随時、追加・開発を行う。  
(最近追加したもの：通行止めマップ)

### ●情報とは

- ・3.11の震災・原発事故の教訓から
  - ✓大規模災害に対処するためには情報回路の複線化が必須。
  - ✓マスメディアに対する不満の原因。
  - ✓SNSの「同時性」「速報性」が注目され。  
既存メディアとは異なる「拡散性」で影響力を発揮した。
  - ✓災害時の錯綜時には、複数の情報について評価される事が必須。
  - ✓メディア社会に構造的変化から生まれ、「集合知」への期待が醸成。

### ●情報の価値

- ・情報に対する姿勢・・・テクノロジー、組織によって変わる。
  - ✓マスメディアは「情報を所有」
  - ✓ネットメディアは「情報を共有」
- ・ネット空間に内在する負の問題・・・「感情の増幅」「偽りの情報」
- ・マスメディア、SNSそれぞれの特性を生かしながら社会的使命を果たす。

### ●まとめ

- ・復興を成し遂げることができるかどうかは「コミュニティ」の力にかかる。
- ・目指す復興は持続可能な社会であること。
- ・プロジェクトメンバーの願い  
車座会議を「熟議の民主主義」のモデルにしたい。

## 【資料】

福島原発災害からの克服に向けて

### ふくしま行動宣言

2011年3月11日に発生した東北太平洋沖地震がもたらした福島原発災害は、丸4年を経てなお、復旧・復興の見通しが立たず、その深刻さ・過酷さを突き付けている。

本日のワークショップを通して得られた教訓に基づいて、福島原発災害からの克服・人々の生活再建と被災地の復興再生に向けた今後の展開報告について、提起したい。

#### ① 被災者の生活再建を実現し、人間の尊厳を取り戻すことを、復興再生の最重要課題と位置づける。

長期的・広域的避難を強いられている被災者の過酷な生活は、いまなお孤独死や自殺などの「関連死」を生みだしている。

私たちは原発災害のもたらした分断化・孤立化による著しい生活の質の低下からの生活再建に取り組むために、被災者が人間らしい日常生活を取り戻すことを最重要課題として行動する。

#### ② 誰でもアクセスしやすい、透明性の高い情報プラットフォームを構築する。

原発被災者や被災地の不信や不安が解消できない背景には災害対応初動期の情報発信の混乱とあいまいさ（事故そのものと避難指示に関する情報、放射線汚染と安全性、除染、賠償、広域避難者支援など）があった。福島原発事故による不信と不安の連鎖を断ち切るためには、透明性の高い情報をいかに適切に収集し、提供できるかにかかっている。

私たちは、原発災害に対する的確・迅速かつ透明性の高い情報発信システムを構築し、アクセスしやすさの確保、復興過程における合意形成プロセスに資する透明性の高い情報プラットフォームを形成するために行動する。

#### ③ 生活再建やふるさとの復興再生に対する合意形成システムを構築する。

原発災害からの復興再生において、被災者や被災地の地域社会が合意形成過程に当事者として参画していくことは極めて重要な復興再生プロセスである。

私たちは地域コミュニティ単位あるいは市町村単位で、住民・企業・行政・専門家などの多様なステークホルダーがフラットに熟議できる「円卓会議」を立ち上げ、福島復興再生を成し遂げるために行動する。

福島原発災害の教訓から導き出されたこれらの行動方針は、日本国内の他の原発や世界の原発それらの立地地域や地域住民など利害関係者における今後の原子力・放射能に関する危機管理のあり方として共有していくことを提起する。

ここに参加した多くの市民や専門家は、この行動指針に基づいて具体的な行動に結びつけていくための国内外のネットワークを構築していくことを決意する。

2015年3月17日

第3回国連防災世界会議関連事業 in 福島 参加者一同

~~~~~

## 第105回ふくしま復興支援フォーラムでのご意見等

1月31日、第105回ふくしま復興支援フォーラムを福島市内A O Zで開催しました。

阿部泰宏さん（フォーラム福島支配人）から、「3 1 1以後の映画 ～直後から現在まで。そして“5年後の作家たち”の時代」をテーマに報告をいただきました。月末の忙しい時期でしたが、32名の皆さんが参加し、活発な質疑応答になりました。会場で提出されたご意見・ご感想などは、以下の通りです。参考にしてください。

~~~~~

★「映画は最終解決にはならないけど、問題提起にはなる」という一言は、非常に印象的ない一言でした。皆で考え、議論するきっかけを作ることが、今、極めて重要だと思うが、そのきっかけを確かに映画は、力を持つだろうと思った。今後も良い映画を上映して下さい、楽しみにしています。（K.N）

★ TVドキュメント番組で語りつがれるものは、ほとんど記憶にないが、映画作品は語りつがれるものが多くあります。（例えば、レジュメに載ってる作品でも「黒い雨」や「東京原発」など）。その意味でも、「映画は、解決にならないが、問題提起になる」というお言葉が印象的でした。ありがとうございました。（A.K）

★ 映画を切り口として、福島の人々の心の変化などもわかり、非常に有意義な時間となった。阿部支配人の綿密な観察、論理展開に感銘を受けた。フォーラム福島の今後の活動に期待しています。「刻印の喪失」は、それぞれが通過しなければならないことと思います。そのきっかけを作っていただければと思います。（S.Y）

★ 何年か経つことで、メジャーではない映画が出始める！何か希望を持ってました。（Y.I）

★「映像」を提供する立場から、震災・原発事故による被災者の心の苦しみを支援する活動をされている姿に、感動しました。（K.F）

★ #105回フォーラム開催有り難うございました。今回の発表を聞いてもやはり、現場（東北）が声を上げ全国展開しないとイケないと思いました。今回#105回に併せA O Zで「3.11復興支援フォーラム」を開催したのですが、お一人見えただけで、残念でした。昔「オールジャパンでガンバロー」と叫んでいました。今その声はどこかへ消えましたが。福島の問題を全国民で共有する事は不可欠と思っています。このためにも、オールジャパン・・・で一つまとまりましょう。（T.S）

★ 映画の話も面白かったのですが、発災後、福島で生きる一市民としての苦悩がとてもストレートで印象的でした。当時のことをこんなにリアルに深く聞いたのは、初めてかもしれません。「考えが違う者同士が理解し、尊重し合えるのか」をテーマにした映画が福島から生まれることを！（H.S）

★ 志をもって取り組まれている事に大変感動しました。映画のみではなく、阿部支配人のお話を、セットで企業や学校で行われる事で、多くの事を自分自身を考える大事な機会になると感じました。（Y.M）

★ 映画というジャンルから原発を考える。大変、興味が湧く内容でした。（Y.A）

★ 映画の一部上映があったので、あっという間に時間が過ぎました。（K.M）

★ 映画館の集客と原発事故の関連とか興味深かった。（I.O）

★ 商業的には必ずしも成功しなくても、「フォーラム」はいつでも尖っててください。（T.S）

★ (シリーズ3部作) チリの3本目を見逃しました(武器なき民衆)。東北のどこかで上映する所はないでしょうか。教えてください。地方の劇場で、自主上映を拝見できるのは、フォーラムならではの経営スタイルと思います。有り難さを痛感しました。(S.K)

★ 映画の力を強く信じています。しかし、ムムム、感じ方、利用の仕方、人それぞれとかわれます。続けて見たいです。(A.M)

~~~~~

~~~~~

【予告】第107回ふくしま復興支援フォーラム 2017年3月15日(水) 18:30~20:30

「地域で見守るしくみ

~生活支援相談員活動状況調査を踏まえて~」

報告者:久保 美由紀 氏(会津大学短期大学部准教授)

会場:福島市アクティブシニアセンター「AOZ(アオウゼ)」視聴覚室

MAXふくしま4F (福島市曾根田町1-18)

~~~~~

◆◆◆◆【会場個人カンパありがとうございました】◆◆◆◆

第105回ふくしま復興支援フォーラム(1月31日)の会場で、カンパ1800円をお寄せいただき、ありがとうございました。ご報告とともに、御礼申し上げます。(今野)

▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽

【会計報告】

第2期(2016.10.27~)

「収入」

|                     |         |
|---------------------|---------|
| 繰越金(第1期から)          | 7,106円  |
| 会場個人カンパ(2016.10.27) | 3,500円  |
| 会場個人カンパ(2016.11.16) | 3,000円  |
| 会場個人カンパ(2016.12.06) | 15,650円 |
| 会場個人カンパ(2017.01.12) | 4,000円  |
| 会場個人カンパ(2017.01.31) | 1,800円  |
| 計                   | 35,056円 |

「支出」

|                          |         |
|--------------------------|---------|
| 会場費(2016.10.27)          | 4,700円  |
| 会場費(2016.11.16)          | 2,400円  |
| 会場費(2016.12.6)           | 2,400円  |
| 会場費(2017.01.11)104回~106回 | 7,920円  |
| 会場費(2017.01.31)107回      | 2,700円  |
| 計                        | 20,120円 |

「残金(現在高)2017.2.17 14,936円

▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽